

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所属 人間科学部心身健

康科学科

名前 中山和久

作成日 2026年4月25日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

「文明の成り立ち／文明科学」「異文化の理解／比較文化論」「日本仏教／日本仏教の世界」「異文化コミュニケーション」「人間のとらえかた／人間観」「中国文化／東洋文化論」「国際文化論」「比較文化特講」「文化人類学特講」「科学哲学特殊講義」などの科目を担当しています。

また、図書館長、広報委員会・委員長、学生委員会・副委員長、地域・産学連携センター、倫理審査委員会・委員、FD・SD推進委員会・委員を担当しています。

2. 理念（教育に対する考え方）

私の専門である文化人類学・民俗学は、地域に根差した文化や民俗を扱います。世界各地の衣食住や人間関係、儀礼などを比較すると、人々が培ってきた知恵の結晶が、いかに人類にとって重要かつ素晴らしいものであるかが理解できます。私たちの身近な生活に秘められた輝かしい価値を足下から再発見しましょう。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

私は民俗学・文化人類学や社会学の分野で研究をしてきました。そのため、本学では「文化」の領域の科目を担当しています。

人間総合科学大学の最大の特徴は、人間を総合的かつ科学的に理解する人材を世の中に送り出していることです。そのポリシーに恥じないよう、学生のみなさんが「文化」の側面から人間を理解できるよう、具体的な事例を出来るだけ数多くお伝えするようにしています。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

医療系のバックグラウンドを持つ学生さんが多いことから、「文化」とは何かよくわからない、わかるように教えて欲しいとの声を頂戴することが何度かあります。
ことに近年は、文章でお伝えしても伝わらないことが多くなってきたように感じており、出来るだけ画像や映像など、目で見てわかるようなコンテンツでお伝えするようにしています。
ただ、著作権の問題などから、授業で提示できるコンテンツは限られ、その場合は学生のみなさんが画像や動画を検索しやすいようなキーワードで紹介しています。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

来年度に向けては、本年度に学生や教職員からいただいた評価や意見を指針として、小さな改善を積み重ねていきます。具体的には、①シラバスの文言を明確にわかりやすくすること、②テストやレポートの問題をより取り組みやすいものとする、③教材を充実させることの3点について優先的に取り組みます。
中期的な目標としては、物事を質的に深く考察できる能力を伸ばす教材の開発に取り組みます。

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。)

<https://www.human.ac.jp/guide/teacher/4439/>

<https://www.human.ac.jp/guide/teacher/4841/>

https://syllabus-cp.human.ac.jp/syllabus_view/choose_exe.php#syllabus_330

https://syllabus-cp.human.ac.jp/syllabus_view/choose_exe.php#syllabus_331

https://syllabus-cp.human.ac.jp/syllabus_view/choose_exe.php#syllabus_333